

# Nihongo Network News

2002.7.12発行

No.37

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 ☎03-3235-1171

東京ボランティア・市民活動センター メールボックスNo.4

## 情報社会の中での 対応が 必要になりました

2002年サッカーW杯が日本・韓国共同で開催され、各地で熱戦が繰り広げられました。

各競技場では国を代表する選手の戦いと熱いサポーターの応援が世界に同時中継され、試合の状況が即座に居ながらにして情報として手に入れることが出来ました。

コンピューター社会の一員となった私たちは多数のホームページ(HP)から欲しい情報を手軽に入手できます。

日本語ボランティアの活動を検索しようと情報が多すぎ、欲しい情報にたどり着くのが大変です。

東京日本語ボランティアネットワークでもホームページ(TNVN-HP)を開設しています。

TNVNは一昨年、会員団体を中心に都内のボランティア日本語教室157(以下：教室)を掲載した「ボランティア日本語教室ガイド2000 東京」を発行しました。

TNVN-HPにはその教室紹介を載せています。

TNVN-HPへのアクセスは毎月2,500件を超え、その中からE-mailでの問い合わせが毎月約100件前後です。TNVN-HPは大きな役割を果たしています。またアクセス元は多岐にわたり、

リンクが欠かせません。

問い合わせの半数近くが日本語の学習ができるボランティア教室を探す外国人や同僚の日本人で、3割が日本語ボランティアを希望しボランティア教室をたずねています。それに2割が日本語ボランティア活動に関するものです。こうした学習希望者・ボランティア希望者に情報提供しています。これにスタッフが対応しています。その状況は本ニュースレター「メールの問い合わせあれこれ」に連載しています。

多くの日本語ボランティア教室にも直接TNVNのHPからE-mailで問い合わせが届きます。一部は団体にE-mailが無く転送が出来ずTNVNで対応しています。

これらの問い合わせや各地域での教室での活動状況を眺めてみると、多数の希望者がいる中で活動している教室が紹介できる機関の掘り起こしとボランティア活動の場をどのように増えるかが課題となります。

同じボランティア日本語活動をしている各地のネットワーク・団体や関連団体・企業と相互のリンクが欠かせるなくなっています。

多くの教室が場所・人材・資金等の問題を抱えて、希望する学習者の受け入れや十分な学習環境の提供ができない現状もあります。

TNVNの活動ではTNVN設立時から日本語ボランティア入門講習会を定期的で開催し、現在120回を超え 累計1,600人の方々にボランティア活動のあり方や活動状況を知っていただいています。ニュースレターではTNVNとその会員団体・関連団体の情報を掲載しています。

こうしたHPとE-mailが大きな情報提供の場となっている状況を踏まえ「TNVNに今、何を要求されているか」を見つめ、対応を取って行きます。ご意見をお願いします。

# シンポジウム in 東京

乳幼児を連れた学習者etc.に開かれた日本語教室を考える会 事務局

田所 希衣子

(仙台市)

昨年暮れに左記のテーマでシンポジウムを開きました。子ども連れの学習者を既に受け入れている教室やこれから検討しようとしている教室から、大部分がボランティアでしたが国際交流協会からの参加もありました。当会会員の1割は行政関係機関が運営する教室担当者です。このテーマを共に考えることができるのは心強いことです。

教室につける保育は、利用者全員に保険が適用される公共施設に教室を開き、ボランティアが無償であれば、経費はそれほどかかりません。保育付きの教室は立ち上げるより、継続させるのが難しいのです。教室に子ども連れの学習者を受け入れると、必要なスペース、責任範囲、関わる人の数がぐんと広がります。この三つの広がりうまく運営していくために、それぞれの教室が単独で頑張っているのですが、地域の中で協力体制を作るという方向が選択肢の一つとして考えられます。「教室」「周囲の人・組織」「行政」の協力です。子どもを受け入れようという「教室」には、たとえそれが少数派のニーズに対してでも必要なものを実現しようという視点と効率よい方法を即時にとろうとする小回りのきく姿勢があります。実際にその過程で具体的な知識、経験、技術が蓄積されていきます。「教室を囲む地域」にはさまざまなノウハウを持った人材や組織、たくさんの将来のボランティアが存在します。保育の場に音楽や人形劇のサークルが来てくれたり、高校生や大学生が定期的に参加してくる教室もあります。家庭訪問をする保健婦さんと情報交換しているという教室もあります。「行政やその地域で信頼性の高い組織」には、人を集める力があります。日本語・保育ボランティアの養成講座を開けば、各教室が個別に開くより講座プログラムの内容も充実し、受講者も集まります。教室と保育用に継続して施設を提供してくれれば、かなり教室運営は安定します。外国人や地域住民に情報を供給するには行政が持っている広報ルートが有効です。低い掛け金の子どものための保険は

行政でこそ実現できます。そのような協力体制の中で、さらにその地域に住民による保育活動が育てば、利用するのは日本語教室だけでなく、公共性の高いシステムになるはずで

逆に、閉じている教室、つまり日本語・保育担当者が自分の役割以外を考えなくてもすむ教室は楽なようですが、気が付くと皆がおんぶに抱っこで活動に活力がなくなってしまう危険性があります。子どもの受け入れにはかなりエネルギーがいりますから、現状維持では多くの場合行き詰まります。余計なことはしなくてもいいということになりかねません。教室の構成員が子ども連れの学習者を受け入れる意義を考え、よりよい形態を作るために苦勞する、外部の人が参加・見学する企画を立てたりして、人脈を広げ、教室を開き、アピールする、そんな努力が活力を生みます。

教室によって状況は異なります。シンポジウムでは4つの事例報告があったのですが、一つ一つの教室が少しずつ社会的な支援の仕組みとして前例を築いて行けば、その積み重ねで地域の中にさまざまな立場の人との協力体制ができていくと信じます。

## ●連絡先

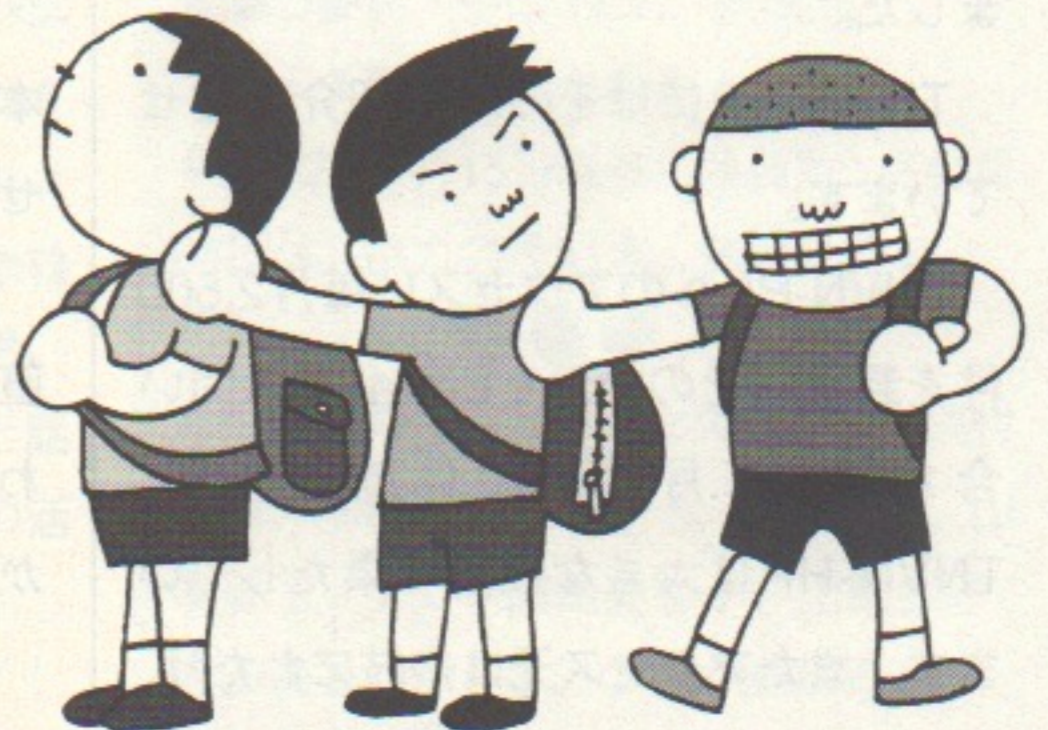
「乳幼児を連れた学習者etc.に開かれた日本語教室を考える会」

事務局/田所 希衣子

〒981-3109 仙台市泉区鶴が丘4-9-7

TEL: 022-375-5639 FAX: 022-375-8373

E-mail: jets@sda.att.ne.jp



# ご存知ですか？

## 夏を楽しむ



### 温泉サイクリングに出かけよう！

日本は世界有数の温泉国です。しかも、日本人は根っからの温泉好きときています。環境省の調査によれば、年間利用者は1億4千万人を超えています。これには、日帰り旅行者は含まれていません。それにしても、日本の総人口を上回る人びとが利用しているのだから驚きです。ところで、この温泉が、なんと都内でも結構楽しめるのだからビックリです。

今回は、週末に買い物にでも行く気軽さで、外国の方でも身近に利用できる都内の温泉を紹介してみよう。

では、お風呂セットをバッグに背負い、温泉サイクリングとしゃれてみよう。

### ●これでいいのか日本の温泉！

温泉法によれば、湧出地点で25℃以上の温水であれば、温泉成分がなくても温泉と認められる。また25℃未満であっても温泉成分のうち、食塩泉や重曹泉など一つでも所定の含有量を満たしていれば温泉となる、“温泉”と一口にいても、その定義は実にあいまいだ。それに加えて、いま、日本の温泉はどんどん「循環湯」になっている。循環湯とは、浴槽の中の湯をフィルターでろ過し、さらに塩素滅菌したのち加熱し、再び浴槽に戻して使うことをいう。当然、温泉成分は薄まって行き、ただのお湯になる。全国の温泉のうち、7割近くがこの循環ろ過システムを採用しているといわれる。ホンモノの温泉は、浴槽の注ぎ口から新しい温泉湯をいつもつぎ足しながら、浴槽からあふれ出させ、湯面に浮かんだゴミを外に流し出す「かけ流し」形態だ。要するに、温泉湯が浴槽からあふれ出ているかどうかだ。

### 東京の温泉

#### ●瀬田温泉山河の湯

TEL/03-3707-8228

世田谷区瀬田4-15-30

地下1,700mから湧出する46℃の天然温泉。約一億年前といわれる古代東京湾の化石海水。殺菌力にすぐれ、皮膚病や婦人病、神経痛、疲労回復に効果がある。

◎10:00～23:00 入浴料2,300円、無休  
(平日サービス) 13:00までに入浴すれば1,700円

#### ●湯シティ蒲田

TEL/03-5711-1126

大田区蒲田1-26-16

ヨードと塩分を含んだ黒湯の天然温泉。露天風呂が楽しめる。冷え性、神経痛に効果。

◎11:00～24:00、入浴料400円、火曜休み

#### ●楽天地サウナ

TEL/03-3631-4126

墨田区江東橋4-27-14

神経痛、筋肉痛に効果あり。

◎5:00～10:00、入浴料1,800円  
10:00～24:00、入浴料2,300円  
24:00～5:00、入浴料3,300円、無休

#### ●宮城湯

TEL/03-3491-4856

品川区西品川2-18-4

神経痛、糖尿病、水虫に効果あり。

◎6:00～10:00、入浴料400円  
13:00～2:00、入浴料400円、第3火曜休み

#### ●そしがや温泉21

TEL/03-3483-2611

世田谷区祖師ヶ谷3-36-21

美肌に効果がある天然温泉の黒湯。

◎14:00～24:00、入浴料400円、無休

#### ●麻布十番温泉越の湯

TEL/03-3404-2610

港区麻布十番1-5-22

すり傷、切り傷、火傷、神経痛、冷え性に効果あり。

◎11:00～21:00、入浴料1,260円

18:00以降は940円、火曜休み

#### ●浅草観音温泉

TEL/03-3844-4141

台東区浅草2-7-26

冷え性、神経痛に効果あり。

◎6:30～18:00、入浴料700円、木曜休み

#### ●池上温泉

TEL/03-3753-0455

大田区西蒲田2-1-7

筋肉痛、神経痛、胃腸病に効果あり。

◎15:00～24:00、入浴料400円、不定休

#### ●鶉の木天然温泉

TEL/03-3758-2845

大田区鶉の木2-11-11

リュウマチ、関節炎、冷え性に効果あり。

◎15:30～1:00、入浴料400円、不定休

#### ●辰巳天然温泉

TEL/03-3753-6901

大田区西蒲田1-16-14

神経痛、冷え性に効果あり。

◎15:30～24:30、入浴料400円、7の日休み

#### ●六籠鉱泉

TEL/03-3821-3826

台東区池の端3-4-20

冷え性、神経痛、関節炎に効果あり。

◎15:30～23:00、入浴料400円、月曜休み

#### ●久松温泉

TEL/03-3751-0119

大田区池上3-31-16

リュウマチ、神経痛、関節炎、冷え性に効果あり。

◎10:00～24:00、入浴料400円、火曜休み

#### ●蒲田温泉

TEL/03-3732-1126

大田区蒲田本町2-23-2

腰痛、冷え性に効果あり。

◎10:00～24:00、入浴料400円、水曜休み

情報発信基地 **ソナの会** かながわ外国籍情報支援ネットワーク

**ソナの会**

〒221-0853 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわボランティアセンター気付

FAX 045-312-6307

神奈川県でのネットワーク化を進め、活動しているソナの会の北村眞佐子さんにお話を伺いました。設立のいきさつ、活動の変遷、意識の変化など、地域性の違いは多少あるとはいえ、TNVNの今後の活動に大いに参考になるお話でした。

**出発はツールである日本語**

ソナの会は1987年、外国籍の人々の支援ネットワークとして結成されました。

神奈川県は、大和市にインドシナ難民定住促進センターがあったことから、ラオス、カンボジア、ベトナムからのインドシナ定住難民や中国帰国者などが多く、早くから日本語教室が開催され、また子どもの保育や生活のサポートに関わっている人も多い地域でした。そういった県内各地域の人たち、県のボランティアセンター、県国際交流協会の職員ら15名ほどが集まり、情報交換の中から、いろいろある生活支援の中でもまずは日本語教育ではと日本語ボランティアの活動に焦点を当てました。そして、中間教材の開発やそれを使用した講座などの開催、情報収集や提供を行いました。「外国

人にとって日本語はあくまでも生活のツールのひとつ。第1に基本の言葉を習得し次のステップへと踏み出していく」という考えから、次への援助もしっかりとフォローしていく体制を作っていました。そして、現在は日本語教育にとどまらず、医療、労働、外国籍の子ども教育など多方面にわたる問題の解決に取り組んでいます。

ソナの会は会員・会費制度がなく、必要な人が集まって活動するゆるやかなネットワークです。月1回の定例会は、地域の特性をよく知るキーパーソンが集まり、それぞれの情報をたずさえ、また解決しなければならない課題を持ち寄り、意見交換する場となっています。必要な情報と人材が集まり、そこでプロジェクトが結成され、課題解決に向けて動きます。資金の調達も必要がある時に集める。問題解決に柔軟にかつスリムに対応しています。

**行政との関わり**

今までに、日本語フォーラムの開催や、教材開発など県の交流協会との協働で多くの事業を行いました。

BULLETIN BOARD

**平成14年度「文化庁日本語教育大会」が開かれます。**

- ◆開催日  
平成14年7月31日(水)・8月1日(木)
- ◆開催場所  
昭和女子大学  
東京都世田谷区太子堂 1-7
- ◆主催  
文化庁、社団法人国際日本語普及協会

(第2日目午前のシンポジウムのみ)

- ◆事務：文化庁文化教育部国語課
- ◆平成14年度大会テーマ  
日本語教育に必要な力を育む
- ◆趣旨  
日本語に関する知識や異文化への対応に必要な力などの日本語教育能力の基盤について、多様な学問的分野から分析・検討し、また、必要な能力を磨くための方法に関して研究協議を行い、日本語教育の水準の向上と推進に資する。

- ◆内容等  
(文化庁配布資料または URL <http://www.bunka.go.jp/> を参照)

**7月31日**

- 全体会13:00～17:30
- 開会挨拶
- 施策説明
- 基調講演1  
日本語教育能力の基盤について考える…  
コミュニケーション能力を磨く
- 基調講演2



## ネットワークのあり方

「ボランティア活動はあくまで個人の活動に帰するものであり、ネットワーク化した時には市民活動に近い意識をもつべきでは」と北村さん。課題を共通し解決に向けて話し合える場であり、ネットワークとしての課題提案、目的を打ち出すことが大切ということ。ネットワークが何を指すかを明確にすることにより、情報の整理ができます。さまざまな分野からの情報、共有できる情報が活動を変え、情報の多さが活動の幅を広げることになるのです。

定住者が多いという特徴から、ソナの会の活動は「国際」よりむしろ「福祉」「多文化共生」というキーワードの基に活動が進められているようです。そして、それは必然的に生活支援となる医療や教育方面にも関わることになるわけです。

わくを作らず柔軟に、新しい課題に取り組んでいく形に「ゆるやかなネットワーク」を感じました。

難しい資金の調達、財団から助成を受けたり社会福祉協議会の委託を受けたりして、その都度最小限の資金で行うよう努めました。ソナの会が調査を、行政は資金・宣伝をというように得意な分野をうまく分担し、上手に連携しています。設立当初から交流協会や県の職員が会の構成メンバーであったという特徴から、行政との信頼関係があることがうかがえます。

「日本語教室・母語教室マップ」は4年ごとに3回発行、そして今回ウェブ上にも載せましたが、ソナの会が情報収集を、県国際交流協会が入力、情報公開を引き受けました。

また、「医療マップ」は、神奈川県の特徴から多くの言語に対応する必要があります。多言語化するにはネイティブの人の情報、知識が必要、確実だと考え、プロジェクトの構成時に外国籍県民会議や民族団体にも参加を呼びかけ企画立案に加わってもらいます。10言語のチームを組み自分達の地域の医療情報を集めて、確実な資料の作成や翻訳に協力してもらいます。正しい情報がきちんと行き渡らなくては何にもならないと、作る時点で活用を考えた情報作りを徹底しました。

<p>日本語教育能力の基盤について考える …異文化対応能力を磨く</p> <p>◎パネルディスカッション (多分野懇談会)</p> <p>日本語に関わる人々に必要な能力について多様な観点から考える</p>	<p>(13:30～17:00)</p> <p>◎第1分科会 日本語の魅力と自己研鑽について考える</p> <p>◎第2分科会 対話力(コミュニケーション)について考える</p> <p>◎第3分科会 心・身体と日本語教育を考える</p> <p>◎第4分科会 日本語の響き…声の力について考える</p> <p>◎第5分科会</p>	<p>地域日本語支援活動と人材育成</p> <p>◎第6分科会 IT(情報通信技術)の実践的活用</p> <p>※講演者名等割愛しました。</p> <p>◆参加対象者 都道府県・市町村等の日本語教育・国際交流・社会教育担当者、日本語教育関係者、大学等日本語教育機関・施設の教員・学生、その他日本語教育に関心を持つ者</p> <p>◆参加費/無料</p>
<p><b>8月1日</b></p>		
<p>◎シンポジウム 10:00～12:15 地域日本語支援コーディネータの役割… ネットワーク構築に向けて</p> <p>◎研究協議会 日本語教育研究協議会</p>		

新しく会員になりました。よろしく！

## 日本語交流クラブ

多田 桂子 (杉並区)

日本語交流クラブは、ボランティアであっても外国語として日本語を教える方法をマスターすべきである、という理念のもとに発足しました。

そこで、事業の第1は、日本語教授法の修得です。(代表者が経歴を生かし、日本語教授法を教える。会員相互で日本語の教え方を研究する。)

集まり、会員相互の交流と親睦を深めていく。

さて、会員ですが、語学能力の高い人(タイ語・ドイツ語・英語など)、日本語学校の教師、ニュージーランド滞在、7月よりドイツへ出発する、日本文化(小笠原礼法・琴などをたしなむ)と、多彩です。

そして、毎週木曜日の午後が、活動日です。現在の学習者は、タイ国・韓国・中国の方々です。

私たちは、楽しく高めあい、出会いを大切に、人生を心豊かにしていきたいと思っています。

### ●秋のイベント情報

ビーズの指輪作り



## 会員団体紹介



## 横のつながりが うまくいっています 日本語グループ

木村 浩 (北区)

東京都北区は人口約33万人に対し、外国人登録者数1万2600人だから、総人口の3.8%の外国人が住んでいる。

北区立中央公園文化センターの教室を借りて活動している「日本語グループ」は、原則として北区に在住または通勤・通学する外国人で日本語を勉強したい人たちを対象に、1992年に発足

したボランティア組織である。

一年を通じて、水・金の午前と、火・木の夜に日本語学習を通じて外国人との交流・親睦に務めている。

午前の学習者は主婦が多く、夜間は学生や勤め人が多い。

われわれのグループの特徴は、

- (1) 1年中のどの日からでも即日参加できる。
- (2) 入門から上級までどんなレベルの人でも受け入れる。

ことである。

5年以上も継続して勉強した人もいるし、数回で辞めてしまう(来なくなる)人もいる。

平均的には、毎回20人位の外国人がレベルによって数グループに分かれ、日本人7~8人と、学習を楽しんでいる。

中国・韓国・台湾・東南アジアからの学習者

が多いが、この10年間に参加した学習者は2600人以上、その国籍は50数ヶ国に及び、世界地図にプロットすると、全世界を覆う。

教室風景を私が詠んだ短歌でご紹介する。

◎「日本の字は面白いです」と  
おの己が書きし文字を見つむる  
マドモアゼル・マリ

◎銃を執り中国に征きしかと馬さんは  
今日また問へりわれ呑みしに

◎少年の日読みし「一房の葡萄」  
今朝も中国の主婦らに教えつつ読む

水曜「日本語グループかたつむり」

金曜「地球クラブ」

AM10:00~12:00

火曜「国際交流日本語のなかま」

木曜「日本語ともの会」

PM7:00~9:00



めて来た時はこわかった。でも、みんなやさしくしてくれたし、とても楽しかった。今も楽しい！日本語はむずかしくなくてよかったと思う。知らない事は5年1組の先生とボランティアの先生たちがやさしく教えてくれてうれしいです。もう言葉もいっばいわかるようになりました。でも時々悲しくなる時もありました。いつも元気なキムになります！

イラスト/キムヒジョン

私が日本に来たのは、去年の9月です。私にくる前にお父さんが一度来ました。その後、私に「日本に行く？」と言ったことがありました。でも、私はその時日本についてあんまり好きじゃなかったから「行かない！」って言いました。それでお父さんは先に日本に行きました。その後、ちょっとお父さんが家にいないのはさみしいから私も9月にきました。でも来てよかったと思います。学校に初



日本について

キムヒジョン/韓国

日本

李秀晶/韓国

江戸川にほんご交流会/江戸川区

た」を連発する人がいるのを見て、むしろ気持ちが悪くなってしまいました。いいサービスは心をこめることだと思います。

日本人のやさしさとしんせつなあいさつは、日本の文化のひとつだと理解しました。資本主義社会で日本のサービスは完璧で、徹底的で、そして専門的です。このところは、私にとって何よりたいせつにならうところだと思います。

日本にはじめてきて生活しながら、ほんとうに日本人が親切なので深い感動を受けました。食堂やデパートやスーパーなどで、お客さんに接する時の優しさと親切。徹底的にお客さん高めて自分をひくめる日本人のサービスの職業意識はたいへんなことでした。しかし時間が過ぎれば過ぎるほど、その親切なあいさつが機械的ということもわかりました。たくさんの店員の中にはお客さんを見ないで「いらっしゃいませ」「ありがとうございます

それからというもの、他の人のやり方を見たり、学習者の反応をみたりして一つの方法を考え実行してみた。教科書を水先案内人として、脇役である絵、写真、文章、実物、いろいろな場面などを教材に、学習者の何を伸ばしたいのか、また何を望んでいるのかに(読む、書く、話す、聞く)焦点を当て進めていった。もちろんその日の学習ポイントは明確にしてのことである。学習効果は少しずつではあるがあがってきていると思う。

私たち日本語ボランティアは、日ごろ、日本語へのアンテナを高くし、身の回りにある教材の確保に努め、発想豊かな学習方法を考えなければならないと思う。この活動を始めて10余年、これからも試行錯誤の中で学習者と共に学び、日本語への感性を高めていきたいと思う。

日本語ボランティアを始めて二、三年目のころ、ある講演会で講師の「私たちは教科書を教えるのではなく、ことばを教えるんです。」「週に一度の日本語教室で何を教えますか。」「学習方法を工夫していますか。」と言う問いかけに強いショックを受けた。市販の教科書を使って学習を進めていたが、どうしても教科書から離れられず、隅々まで羅列的に教えていた。週一回の教室では内容が多すぎ、順を追って学習するにはどのぐらいの時間を要するのか、果たしてこれで良いのかと悩んでいた。コミュニケーションの道具として日本語を身に付けて欲しいと思うとき、学習者にとって何が必要なのか考え始めた。そこで気づいたことは、教科書は教える側の指針であって、言葉そのものではないということだった。



学習者にとって何が必要なのか

飯塚睦

田無国際交流サークル/西東京市

**東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局**

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1  
東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックスNO.4

TEL : 03-3235-1171

(呼び出し:金曜日午後のみ)

FAX : 03-3235-0050

URL : <http://www.t3.rim.or.jp/~tnvn/>

MAIL ID : [tnvn@t3.rim.or.jp](mailto:tnvn@t3.rim.or.jp)

●事務局は金曜日に活動しています。

◆日時：毎週金曜日午後2～7時

ただし6月から第1・第3・第5金曜日は午後2～4時となりますのでご了解ください。

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター

**●日本語ボランティア相談窓口**

事務局では日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがおこたえします。電話またはE-mailでご確認の上、お気軽におこしてください。

**●日本語ボランティア入門講習会**

日本語ボランティアを始めたい方のために役立つ基礎知識の講座です。活動のオリエンテーションとしてぜひ受講してください。全4回(4ヶ月)

◆テーマ

- (7月) 日本語ボランティアとは？
- (8月) 日本語再発見
- (9月) 学習者はどのような人たちか？
- (10月) 日本語学習をどのように支援するか？

◆日時

- 7月12日(金) 午後2:00～4:00
- 7月26日(金) 午後6:00～8:00
- 8月9日(金) 午後2:00～4:00
- 8月23日(金) 午後6:00～8:00
- 9月13日(金) 午後2:00～4:00
- 9月27日(金) 午後6:00～8:00
- 10月11日(金) 午後2:00～4:00
- 10月25日(金) 午後6:00～8:00

◆会場

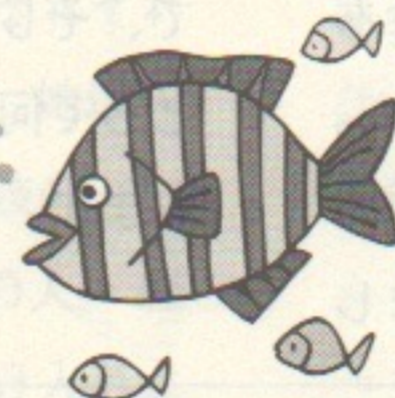
東京ボランティア・市民活動センター  
飯田橋セントラルプラザ10階会議室  
(JR・地下鉄飯田橋駅下車徒歩1分)

◆参加費/1回600円

(TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしてください。



**●TNVNへの入会を希望する方は**

TNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円 切手同封)  
<入会手続>申込用紙に必要事項を記入し、TNVN事務局に郵送またはFAXでお送り下さい。あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回ニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

◆会費/正会員：年会費3,000円

協力会員：年会費2,000円

賛助会員：年会費1口1万円

◆会費払込み先

郵便振替口座番号00100-1-719259

口座名

東京日本語ボランティア・ネットワーク  
(通信欄に『年会費』と記入)

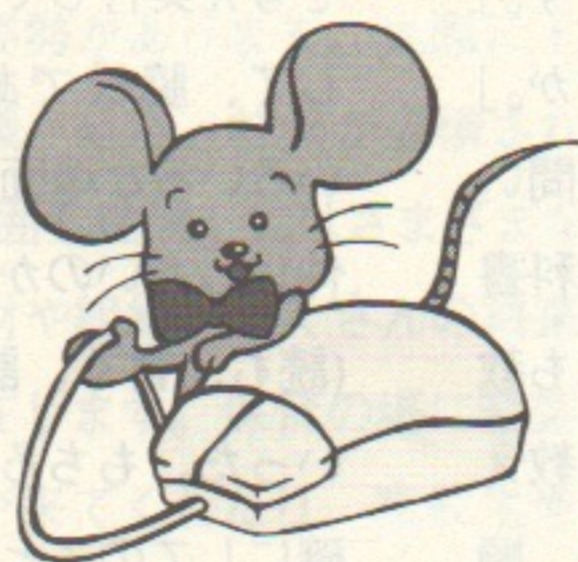
**連絡先の変更等は、郵便かFAXで**

団体の代表・連絡先(TNVNからの郵便物の宛先)・住所などの変更および退会は、事務局まで郵便やFAXまたはE-mailでお知らせ下さい。



**Mail**  
メールの問い合わせ  
あれこれ (3) **Mail**

「うちの大学の学生の研修を日本で」という趣旨の海外の教育機関からのメールがいくつか来ました。ボランティアやNPOについて学ぶ講座からの依頼で、「日本人の学生を日本語ボランティア教室で研修させたいのだが」というアメリカの大学からのメールもありました。プログラム・コーディネーターからのものでしたが、考えてしまいました。この分野の研究はもちろんアメリカが先進的です。で、そこでの理論を日本に適用する…という考えもわかります。でも、研修先のアレンジまで彼らがやってしまうのはどういう考えなのでしょう。学



生が実社会とぶつかり軋轢を感じ、理論と現実の違いを知り、そこから考えていくことこそ、そのような学問にとって一番必要なことではないでしょうか。実際皆さんのグループにこのような依頼がきたらどのように答えますか？外国からではないにせよ、大学や日本語学校、日本語教師養成講座などから各種依頼が来ると思います。そのとき「どう答えようか…」と話し合っていていくうちに、自分たちの活動の目的や内容がはっきりしてくるかもしれませんね。

**SPECIAL THANKS**

★乳幼児を連れた学習者etc.に開かれた日本語教室を考える会 田所 希衣子様  
快く寄稿のお願いに応じていただきました。

★ソナの会 北村 眞佐子様  
快く取材に応じていただきました。

**新入会員のご紹介**

★正会員：日本語交流クラブ

★協力委員：中山 悦子、柳 佳代子、  
吉田久恵、菊森かおる

\*2002年6月15日現在の会員数：正会員  
64団体、協力会員91名、賛助会員4

●編集/岡田美奈子、大久保澄子、梶村勝利、木村茂、床呂英一、林川玲子、山本敬子、アレン山崎美智子、上野悦子、藤田義雄 ●レイアウト/鶴田環恵